

令和6年度 学校評価報告書

学校番号(小32) 長崎市立(稲佐小)学校

1 教育目標

たくましく未来を切り拓く子どもの育成 ※合い言葉「なりたい自分になる」
<身に付けさせたい資質・能力：たくましく未来を切り拓く力>
○よく考え解決する力 ○思いを伝え合う力 ○チャレンジする力 ○自分を大切にする力 ○ふるさとを愛する心

2 学校経営方針

子ども・保護者・教職員・地域が誇りに思える学校
○学力を保障する学校 ○心を育てる学校
○体を鍛える学校 ○地域とともに輝く学校

3 重点目標

①学力の向上：特色ある学校づくり・学習指導の充実・GIGAスクール構想の推進
②児童会目標の意識化：特別活動の充実・道徳教育の充実・特別支援教育の充実・生徒指導の充実・図書活動の充実・平和教育の充実・国際理解教育の充実・人権教育の充実
③3つの約束の徹底：3つの約束「気持ちの良い挨拶」「履き物をそろえる」「は・さ・み歩き」の徹底・健康教育の充実・学校給食の充実・学校体育の充実・「あ・は・は」運動の推進

4 自己評価

領域	項 目	質 問 内 容	アンケート結果			分析及び改善策
			(肯定的割合・%)			
			児 童 生 徒	保 護 者	教 職 員	
学校経営	教 育 目 標	教育目標を達成している	91%	94%	95%	○改善が必要 ・教職員の「学校の雰囲気」「組織運営」が大きく低下。特に「校務分掌」の課題が大きい。業務の改善は推進できているので担任業務との兼ね合いを考慮し負担が偏らない組織体制の構築を目指す。
	学 校 の 雰 囲 気	明るく楽しい雰囲気である	92%	93%	81%	
	組 織 運 営	校務分掌は責任体制が明確で、適切に機能している			57%	
	業 務 の 改 善	校務の縮減・効率化等、業務の改善を推進している			100%	
心の教育	生活・生徒指導	ルールやマナーを身に付けている	76%	80%	33%	○大幅な改善が必要 ・「生活指導」が大きく低下。ほとんどの項目が８０％以下で大幅な改善が必要。特に教職員が著しく低下。問題事案やけがの発生との関連性も高いので安全管理の面でも改善が不可欠。生活指導担当を中心に全職員でそろえた指導を全ての児童に行い、まずは７０％以上達成を目指す。 ・「あはは運動」は９０％以上達成を目指し次年度も更なる周知を行う。 ・教職員の「人権教育」「平和教育」が大きく低下。９０％以上達成を目指し年間を通した周知や取組が必要。「生活指導」との関連性が高いので連携を図る。
		挨拶をよくしている	94%	80%	52%	
		「あ・は・は運動」を知っている(小学校のみ)	78%	78%	57%	
		教職員は悩みや相談に親身に対応している	91%	90%	95%	
	いじめ防止対策	学校はいじめ防止のための対策をとっている	95%	82%	95%	
	人 権 教 育	生命や人権を尊重しようとする心が育っている	94%	87%	71%	
	平 和 教 育	平和の大切さを感じ、その思いを発信しようとしている	98%	91%	81%	
	特別支援教育	学校は教育的ニーズに応じた教育を行っている	98%	88%	90%	
確かな学力	特 色 あ る 学 校 づ く り	伝統や校風、地域の実態に即した教育を行っている	95%	94%	95%	○概ね良好 ・家庭学習の充実は学力向上に欠かせない要因なので、学校での学びの習慣を家庭での学びの習慣につなげる意識を全職員で共有して数値の改善を目指す。
	学 習 指 導 ・ 教 育 課 程	わかりやすい授業を行っている	97%	91%	95%	
		家庭学習の習慣が身に付いている	90%	75%	90%	
	キャリア教育	将来の自立に向けて適切に指導している	86%	86%	100%	
		長崎のまちや自分の住んでいる地域が好きである	95%			

健やかな体	保 健 ・ 衛 生	衛生管理に努め、健康に関する教育を行っている	98%	94%	100%	○概ね良好 ・「早寝・早起き・朝ごはん」は「あはは運動」の取組の一つであるので、まずは「あ・は・は」運動の更なる周知を目指す。
	体 力 向 上	早寝・早起き・朝ごはん(基本的生活習慣)が身に付いている	97%	84%	57%	
		体力向上に努めている	95%	85%	71%	
	食 育	食に関する教育活動を行っている	94%	85%	95%	
信頼される学校	安 全 管 理	児童生徒の安全に気を配っている	81%	89%	95%	○概ね良好 ・児童の「安全管理」が低下。今年度は下水道管を始め修繕工事が多く児童に不便を掛けたことの影響が要因に考えられる。児童が安心して学校生活が過ごせるよう次年度は一層安全に気を配る。
	情 報 提 供	学校の状況は通信やHP等で知ることができる	97%	95%	100%	
	P T A ・ 地 域 と の 連 携	学校はPTAや地域との連携がとれている	96%	95%	95%	
	職 員 資 質 向 上	研修が充実し、資質が向上している			95%	
教育環境	環 境 整 備	教育環境が充実し、整備されている	91%	88%	100%	○概ね良好
	職 場 環 境	学校は働きやすい職場づくりに積極的に取り組んでいる			95%	

5 自己評価のまとめ(成果・課題・対策等)

○「確かな学力」「健やかな体」「信頼される学校」「教育環境」は全体的に「概ね良好」である。本校の学校経営方針やその達成に向けた取組が、児童や保護者に理解されていると考える。また、学習指導は、校内研究における学力向上の取組等の成果が、日々の授業改善だけでなく学力調査の結果にも表れ、高評価につながっていると考え。ただし、家庭での学びにつなげることができず、家庭学習に対する保護者の低評価につながっている点は今後の課題である。

○「心の教育」は低評価の項目が多かった。特に「生活指導」は児童・保護者・教職員ともに低かった。70%を下回った「ルールやマナー」「挨拶」「あはは運動」は「人権教育」「平和教育」との関連性も高いので、生活指導主任を中心に各種の校務担当者や管理職が連携し改善の手立てを講じる必要がある。年間を振り返って挙げた課題に真摯に向き合い全職員で改善に努めたい。

○「学校経営」は教職員の「学校の雰囲気」「組織運営」が低評価。特に「組織運営」は60%を下回り課題が大きい。「業務の改善」は100%で推進できているので担任業務との兼ね合いを考慮し負担が偏らない組織体制の構築を目指したい。「組織運営」が改善されるに伴い「学校の雰囲気」も改善されると考える。60%未満の項目については、全職員で改善策を考えていく。

6 学校関係者評価

○地域でのルールやマナーについては、保護者同伴の際はよく、児童だけの際はよくない場面も見られる。地域でもイベント開催時等に児童と接して関係を深めることで、地域の方々への挨拶や言葉遣いをよくしていきたい。挨拶については、こちらから挨拶したときにはするが、児童からすることは少ない。自分から挨拶をするようになってほしい。

○不登校を始め、いろいろな児童や保護者がおり、その対応で学校も大変であろう。今後学校の統合があれば、校区が広がり、ますます児童の顔が見えにくくなり、地域での対応も難しくなるであろう。

○クロームブック等のICT機器のデメリットが影響している児童が増えているのが心配である。また、外遊びをしている児童が少ないのも気になる。体力面の向上には今後も取り組んでほしい。

○児童と接することが年々減ってきた。気になることはあまりなく、とにかく児童のよいところを伸ばす教育をしてほしい。

○学校よりは発行後早めに配付してほしい。地域では配るだけでなく一言添えるなどの見てもらう工夫をしている。

7 対策等の見直し(学校関係者評価を受けて)

①学校と家庭と地域が目標を共有し課題解決(改善)に向けて取り組む。特にルールやマナーの改善に向けて。
・学校行事や懇談会等の機会、学校だよりや学年(学級)通信等を効果的に活用し、学校(学年・学級)の目指す子ども像の姿や学校目標、成果や課題等を保護者や地域と共有し、それぞれの立場でできる手立てに取り組む。

②体力面の向上に向けて取り組む。
・課題である持久力については、体育の時間の準備運動の一つとして、学級の実態に応じた持久走等を実施する。また、取組の成果を発揮する場として育成協主催の持久走大会を活用するなど、地域との連携も図る。

③地域との連携強化に向けて取り組む。
・チラシの配布や学校(担任等)からの積極的な参加の呼び掛けに加え、学校だよりにより地域行事の話題を取り上げ、地域行事への参加率向上を図る。また、学校だよりは毎月(月末まで)の配布を心掛ける。

※「4 自己評価」の「項目」欄には、領域毎に空欄を設定している。ここには、重点目標に即し、学校独自の「評価項目」並びに「質問内容」を追加することができる。

＜参考例＞ 読書活動、豊かな体験活動、部活動 等

※「4 自己評価」のアンケートは、4段階で回答するようになっているが、そのうち上位2段階を肯定的回答ととらえ、その割合(整数値のみ)を集計する。